

## 令和7年度最適化活動の目標の設定等

都道府県名： 青森県

農業委員会名： 弘前市農業委員会

## I 農業委員会の状況(令和7年4月1日現在)

## 1 農業委員会の現在の体制

任命・委嘱年月日 7 年 4 月 1 日

任期満了年月日 10 年 3 月 31 日

	農業委員	
	定数	実数
農業委員数	26	26
認定農業者	—	18
認定農業者に準ずる者	—	0
女性	—	4
40代以下	—	6
中立委員	—	1

	定数	実数	担当区域数
農地利用最適化推進委員	53	53	14

## 2 農家・農地等の概要

	経営体数
総農家数	5,441
農業経営体数	4,792

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	農業者数(人)
基幹的農業従事者数	9,190
女性	4,213
40代以下	1,460

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	経営体数(経営体)
認定農業者	1,192
基本構想水準到達者	891
認定新規就農者	55
農業参入法人	113
集落営農経営	12
特定農業団体	0
集落営農組織	12

※農業委員会調べ

単位:ha

	田	畑				計
			普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	4,140	9,790				13,900

※ 直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

## II 最適化活動の目標

### 1 最適化活動の成果目標

#### (1) 農地の集積

##### ① 現状及び課題

現状	管内の農地面積(A)		これまでの集積面積(B)		集積率(B)/(A)	
	13,900	ha	9,048	ha	65.1	%
課題	農家の高齢化や労働力の確保が課題となっている中で、今後の伸びの鈍化が懸念される。また、当市の基幹作物であるりんごは、多くが家族経営であることから、自家労働力で集積できる面積には限度がある。法人経営においても、集積するためには、人件費をはじめとする経費の増加の課題がある。					

※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2 「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

##### ② 目標

農地の集積の目標年度	13	年度	集積率	80.0	%
今年度の新規集積面積	185	ha	農地面積(C)	13,540	ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	9,290	ha	(目標)今年度末の集積率 (E)=(D)/(C)	68.6	%

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

#### (2) 遊休農地の解消

##### ① 現状及び課題

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況				
	1号遊休農地面積	うち緑区分の遊休農地面積	うち黄区分の遊休農地面積		
	462.2	ha	138.3	ha	323.9
課題	農業従事者の高齢化と後継者不足から、耕作を断念する者や規模縮小せざるを得ない農業者が増加している。一方、生じる余剰農地を引き受けできる農業者も少ない中、指導だけでの解消は困難になっている。樹園地の廃園には樹木の伐採等が必要であるが、労働力及び経費不足から現状で放任する者もあり、病害虫発生による周辺農地への影響が発生しないよう対応が求められている。				

##### ② 目標

###### ア 既存遊休農地の解消

###### a 緑区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積	63.9	ha
緑区分の遊休農地の解消目標面積	12.8	ha

※ 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

###### b 黄区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	289.5	ha
--------------------------	-------	----

黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	市長部局等の関係機関と連携し、遊休農地の解消のための工程表の策定を進める。
-------------------------	---------------------------------------

###### イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積	22.9	ha
---------------------------	------	----

### (3)新規参入の促進

#### ①現状及び課題

現状	令和3年度新規参入者		令和4年度新規参入者		令和5年度新規参入者	
	29	経営体	36	経営体	55	経営体
	53.1	ha	43.9	ha	35.7	ha
課題	新規参入者数は、一定数を維持してるが、若年層や農地所有適格法人の新規参入の促進を図る必要がある。					

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体の経営面積の合計の農地面積を記入

#### ②目標

権利移動面積	令和3年度	令和4年度	令和5年度	平均
	468.5 ha	398.9 ha	359.4 ha	408.9 ha
新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積			40.9 ha	

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。)及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

## 2 最適化活動の活動目標

### (1)推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	10 日/月	最適化活動を行う農業委員の人数	26 人
		農地利用最適化推進委員の人数	53 人

### (2)活動強化月間の設定目標

活動強化月間の設定回数	4 回	
取組時期	取組項目	強化月間の内容
7月	①農地の集積	地域における協議の場への参加、取組み
12月～2月	②遊休農地の解消	営農意向調査(後継者の有無、今後10年間の意向などの調査)
1月～2月	①農地の集積	集落座談会への参加、取組み

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

### (3)新規参入相談会への参加目標

新規参入相談会への参加回数	1 回		
開催時期	未定	相談会名	未定
参加者数	1名	開催場所	未定
相談会の内容	県内あるいは県外で開催される新規参入相談会の機会を捉えて、参加をする。		
開催時期		相談会名	
参加者数		開催場所	
相談会の内容			

※ 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)